

家族構成にみる行事食と儀礼食の実態調査

宇和川 小百合

(平成24年12月20日査読受理日)

Survey of Festive and Ceremonial Foods from the Perspective of Family Structure

UWAGAWA, Sayuri

(Accepted for publication 20 December 2012)

キーワード：家族構成、行事食、儀礼食、関東甲信越

Key words: Family Structure, Festive Foods, Ceremonial Foods, the Kanto-Koshinetsu region

1.はじめに

日本では、5世紀頃の縄文時代には甑（こしき：蒸す調理具）が出現し、ハレ（年中行事や通過儀礼などが行われる日常と異なる日）の飯は蒸す調理法であったと考えられている¹⁾。江戸時代（1600～1868年）に入り白米食が定着して、今日の日本料理が確立した。家庭では家族が集まって食事をしながら、子どもの躰（現在の食育を含む）などが行われ、また、外食ができるようになり、嗜好品なども出回って、庶民も食べる楽しみを味わうようになった。そして、簡略化された本膳料理が、明治時代以降も儀礼食として引き継がれるようになった。ケ（ハレの日に対して日常・平生の日）の食事は、穀類などの炭水化物を中心としたもので、ハレの食事は、穀類に魚介類などのたんぱく質を取り入れた食事であり、米飯を主食にした日本型食事が形成された²⁾。その後、諸外国から様々な食材や料理、そして食べ方などが持ち込まれて、現在のような多種多様な食文化が形成されるようになった。

近年の食生活の弊害ともいえる生活習慣病の増加など^{3), 4)}に伴い、食育基本法が施行され、食文化の継承活動が盛り込まれている。また、学校給食法の目標の一つにもなっている。

わが国の食文化のひとつに国全体のお祝い時である正月や江戸時代に幕府が定めた五節供（人日、上巳、端午、七夕、重陽）などがあり⁵⁾、ご馳走を作つて神に供える年中行事と各地で採れる食材を使って培われてきた地方の食文化があり、これらの伝統食を共食することで、家族あるいは地域とのつながりを深めることができた。

ところが、その行事とのかかわりが減りつつある。読売新聞社の冠婚葬祭に関する全国世論調査⁶⁾で、冠婚葬祭を簡素に行う方がよい、と回答した人は、法要、葬式、七五三、結婚式・披露宴で、いずれも90%前後に達していた。

また、子どもの誕生から成人式まで行った方がよいものは、成人式82%，七五三と初宮参り・お宮参りが65%程度であった。

このような状況にあり、年中行事や通過儀礼につきものの和食を2012年3月政府は「和食：日本人の伝統的な食文化」と題して、日本食文化をユネスコ無形文化遺産に登録申請した⁷⁾。その中の和食の特徴の一つに「年中行事との関わり」をあげており、自然の恵みである「食」を分け合い、食の時間を共にすることで、家族や地域の絆が強くなる、といっている。

しかし、日本独特の食文化のひとつである行事食や儀礼食に関する研究報告は少ない。そこで、減少の理由に、家族構成の変化があり、伝承されにくい状況ができたのではないか、と考えて家族構成と行事食や儀礼食の経験との関連を調べて検討することにした。

2. 調査方法

1) 調査対象

平成21～23年度に「調理文化の地域性と調理科学－行事食・儀礼食－」というテーマで行われた全国規模のアンケート調査⁸⁾である、日本調理科学会特別研究委員会のデータベースをもとに、今回は関東・甲信越地区での調査を集計し、解析したので報告する。

データベースから集計するにあたり、調査対象者を見直して集計したので、調査対象者数は、5,324名となった。しかし、男性回答者437名（8.2%）と少なかったことと、食事に関する調査なので、男女に差異があると考えて、男性を除外した。また、性別に対して無回答だった7名（0.1%）を除き、女性回答者4,880名（91.7%）を今回の調査対象者とした。

2) 調査期間

平成21年12月～平成22年8月

3) 調査内容

検討した項目

①対象者属性項目：現住所、性別、年齢、同居の家族構成、

職業、行事食の影響を受けている人。

②行事に対する認知度と経験（17項目）

③行事に供される食べ物の経験（51項目）

④儀礼に対する認知度と経験（13項目）

⑤儀礼に供される食べ物の経験（24項目）

解析は、SPSS 20.0で行った。対象者を家族構成である世代別に分けて、有意水準を5.0%とし χ^2 検定を行った。その際に χ^2 検定で有意差が認められた変数のどこに差があるかを確認するために残差分析を行った。

また、世代別と有意水準を5.0%とし、相関を求めた。

3. 結果

1) 対象者の属性

対象者4880名の属性を表1に示した。

表1. 対象者の属性

		名	%
現住所 (都道府県)	東京	719	(14.7)
	神奈川	368	(7.5)
	埼玉	474	(9.7)
	千葉	624	(12.8)
	茨城	574	(11.8)
	栃木	352	(7.2)
	群馬	261	(5.4)
	山梨	116	(2.4)
	新潟	471	(9.7)
	長野	719	(14.7)
	福島	55	(1.1)
	静岡	40	(0.8)
	その他	104	(2.1)
	無回答	3	(0.1)
年齢	20歳未満	1544	(31.6)
	20歳代	1418	(29.1)
	30歳代	77	(1.6)
	40歳代	908	(18.6)
	50歳代	700	(14.3)
	60歳代	111	(2.3)
	70歳代	99	(2.0)
	80歳以上	20	(0.4)
	無回答	3	(0.1)
家族構成	同世代	1131	(23.2)
	二世代	2247	(46.1)
	三世代	986	(20.2)
	四世代	15	(0.3)
	本人一人	407	(8.3)
	その他	55	(1.1)
	無回答	39	(0.8)
職業	会社員	459	(9.4)
	自営業	143	(2.9)
	農・林・漁業	39	(0.8)
	専業主婦(主夫)	542	(11.1)
	学生	2907	(59.6)
	アルバイト・パート	631	(12.9)
	その他	146	(3.0)
	無回答	13	(0.3)
行事食への影響者	父方	768	(15.7)
	母方	2761	(56.6)
	配偶者	243	(5.0)
	その他	197	(4.0)
	わからない	647	(13.3)
	無回答	264	(5.4)
計		4880	(100.0)

(1) 現住所

対象者の現住所は、多い順に東京都、長野県が14.7%，次いで千葉県12.8%，茨城県11.8%，埼玉県と新潟県9.7%で、次いで神奈川県、栃木県、群馬県、山梨県と続き、関東甲信越地区以外は4.1%であった。

(2) 年齢

対象者の年齢は多い順から、20歳未満31.6%，20歳代29.1%，40歳代18.6%，50歳代14.3%，60歳代2.3%，70歳代2.0%，30歳代1.6%，80歳以上0.4%であった。

(3) 家族構成

対象者の家族構成は多い順から、二世代46.1%，同世代23.2%，三世代20.2%，本人一人8.3%，四世代0.3%であった。

(4) 職業

対象者の職業は、学生59.6%，次いで、アルバイト・パート、専業主婦・主夫、会社員、自営業、農・林・漁業、その他の順であった。

(5) 行事食へ影響を与えた人

行事食へ影響を与えた人は、最も多い母方56.6%，次いで父方15.7%，配偶者5.0%であった。

2) 家族構成と行事

(1) 行事の認知度と経験

行事の認知度は高く、ほとんどが85%以上であった。行事の認知度の低い行事は、重陽19.5%，秋祭り23.9%，春祭り24.3%であった（表2）。それに比べて行事の経験は、93.6~4.0%と低い値であった。（表3）。

行事の経験では、正月、七夕、月見、クリスマス、大晦日は全体に高く、春祭りは低かった。行事の認知度と経験と家族構成との関連をみると、関係がみられなかった。節分と重陽は、認知度で家族構成と関係があったが、経験では、全体に節分は高く、重陽は低く関係がなかった。

家族構成と関係があった行事をみると、同世代の認知度で、端午と秋祭り以外の行事に、経験の端午以外の行事に、そして、四世代の認知度で、端午に有意に少ないことが認められた。本人一人では、認知度の上巳、土用、冬至に有意に多く、秋祭りは有意に少なく、経験の春分、秋分、秋祭りも有意に少ないことが認められた。

二世代では、認知度の人日、節分、上巳、端午、重陽、秋分に、経験の人日と上巳に、そして、三世代の認知度で、春分、盂蘭盆、秋分、秋祭りに、経験の春分、盂蘭盆、秋分、冬至、秋祭りに有意に多いことが認められた。

その結果、認知度では、二世代に多く、経験では、三世代に有意に多いことが認められた。そして、同世代、本人一人で、有意に少ないことが認められた。

(2) 行事に供される食べ物の経験

行事に供される食べ物51種類の経験について調査したことろ、全体には、正月の食べ物（屠蘇と赤飯を除く）で

家族構成にみる行事食と儀礼食の実態調査

表2. 家族構成にみる行事の認知度

行事 \ 家族構成	全体 n=4880	同世代 n=1131	二世代 n=2247	三世代 n=986	四世代 n=15	本人一人 n=407	その他 n=55	無回答 n=39	χ^2 検定
正月									
有	4368(89.5)	988(87.4)	2039(90.7)	885(89.8)	14(93.3)	363(89.2)	47(85.5)	32(82.1)	0.073 n.s
無	17(0.3)	3(0.3)	12(0.5)	1(0.1)	0(0.0)	1(0.2)	0(0.0)	0(0.0)	
人日									
有	4266(87.4)	949(83.9) -	1987(88.4) +	875(88.7)	14(93.3)	362(88.9)	48(87.3)	31(79.5)	0.002 **
無	310(6.4)	84(7.4)	145(6.5)	46(4.7)	0(0.0)	27(6.6)	3(5.5)	5(12.8)	
節分									
有	4409(90.3)	972(85.9) -	2062(91.8) +	901(91.4)	13(86.7)	377(92.6)	49(89.1)	35(89.7)	<0.001 **
無	24(0.5)	2(0.2)	15(0.7)	5(0.5)	0(0.0)	2(0.5)	0(0.0)	0(0.0)	
上巳									
有	4367(89.5)	979(86.6) -	2032(90.4) +	884(89.7)	13(86.7)	377(92.6) +	47(85.5)	35(89.7)	0.021 *
無	179(3.7)	60(5.3)	75(3.3)	30(3.0)	1(6.7)	11(2.7)	1(1.8)	1(2.6)	
春分									
有	4142(84.9)	926(81.9) -	1919(85.4)	864(87.6) +	13(86.7)	351(86.2)	39(70.9) -	30(76.9)	<0.001 **
無	388(8.0)	111(9.8)	183(8.1)	47(4.8)	1(6.7)	32(7.9)	8(14.5)	6(15.4)	
端午									
有	4206(86.2)	955(84.4)	1969(87.6) +	840(85.2)	10(66.7) -	357(87.7)	42(76.4) -	33(84.6)	0.023 *
無	332(6.8)	87(7.7)	134(6.0)	68(6.9)	3(20.0)	31(7.6)	5(9.1)	4(10.3)	
孟蘭盆									
有	2926(60.0)	623(55.1) -	1365(60.7)	628(63.7) +	7(46.7)	254(62.4)	27(49.1)	22(56.4)	0.012 *
無	1607(32.9)	418(37.0)	721(32.1)	294(29.8)	7(46.7)	132(32.4)	21(38.2)	14(35.9)	
七夕									
有	4347(89.1)	1001(88.5)	2004(89.2)	874(88.6)	13(86.7)	376(92.4)	45(81.8)	34(87.2)	0.235 n.s
無	206(4.2)	48(4.2)	97(4.3)	46(4.7)	2(13.3)	9(2.2)	3(5.5)	1(2.6)	
土用									
有	4397(90.1)	997(88.2) -	2043(90.9)	883(89.6)	13(86.7)	381(93.6) +	44(80.0) -	36(92.3)	0.005 **
無	190(3.9)	62(5.5)	76(3.4)	35(3.5)	2(13.3)	10(2.5)	4(7.3)	1(2.6)	
重陽									
有	953(19.5)	179(15.8) -	502(22.3) +	186(18.9)	2(13.3)	74(18.2)	8(14.5)	2(5.1) -	<0.001 **
無	3558(72.9)	858(75.9)	1586(70.6)	718(72.8)	13(86.7)	311(76.4)	40(72.7)	32(82.1)	
月見									
有	4463(91.5)	1024(90.5)	2078(92.5)	885(89.8)	14(93.3)	379(93.1)	47(85.5)	36(92.3)	0.077 n.s
無	143(2.9)	37(3.3)	57(2.5)	40(4.1)	1(6.7)	6(1.5)	1(1.8)	1(2.6)	
秋分									
有	4162(85.3)	912(80.6) -	1941(86.4) +	866(87.8) +	14(93.3)	353(86.7)	44(80.0)	32(82.1)	<0.001 **
無	463(9.5)	146(12.9)	204(9.1)	68(6.9)	0(0.0)	34(8.4)	6(10.9)	5(12.8)	
冬至									
有	4447(91.1)	1002(88.6) -	2065(91.9)	901(91.4)	15(100.0)	382(93.9) +	48(87.3)	34(87.2)	0.041 *
無	211(4.3)	66(5.8)	89(4.0)	38(3.9)	0(0.0)	11(2.7)	3(5.5)	4(10.3)	
クリスマス									
有	4664(95.6)	1070(94.6)	2160(96.1)	936(94.9)	15(100.0)	392(96.3)	52(94.5)	39(100.0)	0.398 n.s
無	14(0.3)	7(0.6)	4(0.2)	2(0.2)	0(0.0)	1(0.2)	0(0.0)	0(0.0)	
大晦日									
有	4673(95.8)	1073(94.9)	2161(96.2)	938(95.1)	15(100.0)	395(97.1)	52(94.5)	39(100.0)	0.663 n.s
無	13(0.3)	4(0.4)	4(0.2)	4(0.4)	0(0.0)	1(0.2)	0(0.0)	0(0.0)	
春祭り									
有	1186(24.3)	281(24.8)	527(23.5)	259(26.3)	5(33.3)	90(22.1)	15(27.3)	9(23.1)	0.256 n.s
無	3186(65.3)	729(64.5)	1487(66.2)	615(62.4)	10(66.7)	287(70.5)	32(58.2)	26(66.7)	
秋祭り									
有	1166(23.9)	251(22.2)	530(23.6)	296(30.0) +	3(20.0)	70(17.2) -	10(18.2)	6(15.4)	<0.001 **
無	3228(66.1)	754(66.7)	1512(67.3)	582(59.0)	11(73.3)	302(74.2)	39(70.9)	28(71.8)	

人数 (%)

無回答を除いているので、各変数の合計人数は異なる。

有意差の検定 : Pearson の χ^2 検定 *: p < 0.05 **: p < 0.01 n.s: 有意差なし

+、-は、残差分析で調整頻度に有意差が認められた項目を示す。 $(\chi^2$ 検定の結果、有意差のある項目のみ)

+: 調整済み残差 $\geq +2$ で他の調整頻度より有意に多い。

-: 調整済み残差 ≤ -2 で他の調整頻度より有意に少ないと。

94.3~70.6%, 上巳の寿司・ご飯 78.2%と餅菓子 73.7%, 土用のうなぎの蒲焼 83.1%, 冬至のかぼちゃ 74.7%, クリスマスの鶏肉・七面鳥料理 82.3%とケーキ 95.8%, 大晦日の年越しそば 93.5%などが高かった(表4)。

食べ物で低いものは、重陽、端午、上巳、正月の酒類(0.8~33.9%)と秋分、春分、孟蘭盆の精進料理(5.7~9.6%)と七夕、孟蘭盆の煮しめ(3.5, 14.0%)と七夕、正月、端午の赤飯(6.0~25.6%)と秋祭り、春祭り、孟蘭盆、端午の団子・餅(4.4~37.3%), そして、大晦日、節分の魚料理(4.8, 26.0%)などである。それ以外で低い

食べ物は、端午のちまき、孟蘭盆の麺、七夕のところ天とまんじゅう、大晦日の料理、春祭りと秋祭りのご飯・寿司の食べ物であった。

家族構成との関係において、行事の食べ物の2/3に關係があった。正月料理の黒豆、数の子、昆布巻き、きんとん、かまぼこ、土用のうなぎの蒲焼、お月見の団子、クリスマスケーキ、大晦日の年越しそばは全体に高く、端午のちまきと菖蒲酒、七夕の食べ物、重陽の菊花酒は低く、家族構成と関係はなかった。

家族構成と関係があった食べ物をみると、同世代の人日、

表3.家族構成にみる行事の経験

行事 \ 家族構成	全体 n=4880	同世代 n=1131	二世代 n=2247	三世代 n=986	四世代 n=15	本人一人 n=407	その他 n=55	無回答 n=39	χ^2 検定
正月									
有	4312(88.4)	974(86.1)	2014(89.6)	874(88.6)	14(93.3)	358(88.0)	47(85.5)	31(79.5)	0.230 n.s
無	16(0.3)	3(0.3)	9(0.4)	3(0.3)	0(0.0)	1(0.2)	0(0.0)	0(0.0)	
人日									
有	2956(60.6)	633(56.0) -	1410(62.8) +	616(62.5)	12(80.0)	240(59.0)	28(50.9)	17(43.6) -	<0.001 **
無	1546(31.7)	380(33.6)	687(30.6)	293(29.7)	2(13.3)	142(34.9)	23(41.8)	19(48.7)	
節分									
有	4400(90.2)	1001(88.5)	2030(90.3)	900(91.3)	15(100.0)	369(90.7)	51(92.7)	34(87.2)	0.055 n.s
無	157(3.2)	37(3.3)	85(3.8)	19(1.9)	0(0.0)	15(3.7)	1(1.8)	0(0.0)	
上巳									
有	4109(84.2)	906(80.1) -	1919(85.4) +	845(85.7)	13(86.7)	349(85.7)	42(76.4)	35(89.7)	0.002 **
無	358(7.3)	114(10.1)	152(6.8)	52(5.3)	1(6.7)	31(7.6)	7(12.7)	1(2.6)	
春分									
有	3153(64.6)	649(57.4) -	1484(66.0)	724(73.4) +	11(73.3)	235(57.7) -	25(45.5) -	25(64.1)	<0.001 **
無	1285(26.3)	365(32.3)	571(25.4)	170(17.2)	3(20.0)	142(34.9)	23(41.8)	11(28.2)	
端午									
有	3260(66.8)	729(64.5)	1523(67.8)	684(69.4)	10(66.7)	263(64.6)	28(50.9) -	23(59.0)	0.002 **
無	1184(24.3)	294(26.0)	536(23.9)	199(20.2)	3(20.0)	120(29.5)	20(36.4)	12(30.8)	
盂蘭盆									
有	1990(40.8)	391(34.6) -	913(40.6)	481(48.8) +	7(46.7)	164(40.3)	19(34.5)	15(38.5)	<0.001 **
無	2318(47.5)	597(52.8)	1072(47.7)	392(39.8)	7(46.7)	201(49.4)	28(50.9)	21(53.8)	
七夕									
有	2986(61.2)	669(59.2)	1372(61.1)	612(62.1)	9(60.0)	269(66.1)	33(60.0)	22(56.4)	0.435 n.s
無	1480(30.3)	358(31.7)	685(30.5)	291(29.5)	6(40.0)	113(27.8)	16(29.1)	11(28.2)	
土用									
有	4017(82.3)	899(79.5) -	1864(83.0)	820(83.2)	12(80.0)	347(85.3)	40(72.7)	35(89.7)	0.030 *
無	485(9.9)	132(11.7)	216(9.6)	84(8.5)	3(20.0)	40(9.8)	9(16.4)	1(2.6)	
重陽									
有	195(4.0)	35(3.1)	93(4.1)	41(4.2)	1(6.7)	22(5.4)	2(3.6)	1(2.6)	0.445 n.s
無	3948(80.9)	920(81.3)	1819(81.0)	793(80.4)	12(80.0)	334(82.1)	39(70.9)	31(79.5)	
月見									
有	3175(65.1)	730(64.5)	1496(66.6)	618(62.7)	7(46.7)	265(65.1)	33(60.0)	26(66.7)	0.160 n.s
無	1357(27.8)	308(27.2)	606(27.0)	291(29.5)	8(53.3)	118(29.0)	15(27.3)	11(28.2)	
秋分									
有	2958(60.6)	598(52.9) -	1390(61.9)	689(69.9) +	12(80.0)	219(53.8) -	28(50.9)	22(56.4)	<0.001 **
無	1560(32.0)	427(37.8)	705(31.4)	227(23.0)	2(13.3)	162(39.8)	23(41.8)	14(35.9)	
冬至									
有	3710(76.0)	785(69.4) -	1733(77.1)	812(82.4) +	14(93.3)	306(75.2)	35(63.6) -	25(64.1)	<0.001 **
無	858(17.6)	262(23.2)	382(17.0)	105(10.6)	1(6.7)	82(20.1)	15(27.3)	11(28.2)	
クリスマス									
有	4555(93.3)	1042(92.1)	2110(93.9)	916(92.9)	15(100.0)	384(94.3)	51(92.7)	37(94.9)	0.468 n.s
無	48(1.0)	13(1.1)	23(1.0)	6(0.6)	0(0.0)	6(1.5)	0(0.0)	0(0.0)	
大晦日									
有	4566(93.6)	1043(92.2)	2117(94.2)	918(93.1)	15(100.0)	386(94.8)	51(92.7)	36(92.3)	0.595 n.s
無	47(1.0)	15(1.3)	20(0.9)	8(0.8)	0(0.0)	4(1.0)	0(0.0)	0(0.0)	
春祭り									
有	776(15.9)	184(16.3)	330(14.7)	184(18.7)	4(26.7)	57(14.0)	8(14.5)	9(23.1)	0.195 n.s
無	3236(66.3)	752(66.5)	1513(67.3)	618(62.7)	9(60.0)	284(69.8)	35(63.6)	25(64.1)	
秋祭り									
有	723(14.8)	137(12.1) -	315(14.0)	211(21.4) +	3(20.0)	45(11.1) -	6(10.9)	6(15.4)	<0.001 **
無	3280(67.2)	794(70.2)	1535(68.3)	589(59.7)	8(53.3)	288(70.8)	38(69.1)	28(71.8)	

人数 (%) 無回答を除いているので、各変数の合計人数は異なる。

有意差の検定 : pearson の χ^2 検定 *: p<0.05 **: p<0.01 n.s: 有意差なし

+, - は、残差分析で調整頻度に有意差が認められた項目を示す。 $(\chi^2$ 検定の結果、有意差のある項目のみ)

+ : 調整済み残差 $\geq +2$ で他の調整頻度より有意に多い。

- : 調整済み残差 ≤ -2 で他の調整頻度より有意に少ない。

節分、上巳、孟蘭盆、春分、秋分、冬至などの19の食べ物が有意に少なく、正月の赤飯のみ有意に多いことが認められた。そして、本人一人の正月の一部、節分、上巳、春分、端午、秋分、冬至、クリスマスなどの10の食べ物に有意に少ないことが認められた。

二世代の正月の一部の料理、人日、上巳などの8の食べ物に有意に多く、正月と端午の赤飯、孟蘭盆と春祭り、秋祭りの団子・餅などの6の食べ物に有意に少ないことが認められた。三世代の節分、上巳、春分、端午、孟蘭盆、秋分、冬至、大晦日、春祭り、秋祭りなどの18の食べ物に有意に多く、正月の赤飯と伊達巻に有意に少ないことが

認められた。そして、四世代の端午の赤飯、冬至のかぼちゃ、春祭りと秋祭りのご飯・寿司に有意に多いことが認められた。

その結果、三世代、二世代、四世代の順で、有意に多くの食べ物が多く、同世代、本人一人に有意に少ないことが認められた。

3) 家族構成と儀礼

(1) 儀礼の認知度と経験

儀礼の認知度では、ほとんどが75%以上と高く、やや低い儀礼は、百日祝い59.4%、お七夜50.2%であった(表5)。儀礼の経験は、全体に認知度に比べて、95.1~28.9%

表5. 家族構成にみる儀礼の認知度

儀礼	家族構成	全体 n=4880	同世代 n=1131	二世代 n=2247	三世代 n=986	四世代 n=15	本人一人 n=407	その他 n=55	無回答 n=39	χ^2 検定
出産祝い										
有	有	4266(87.4)	957(84.6)	1978(88.0)	886(89.9)	14(93.3)	351(86.2)	47(85.5)	33(84.6)	0.080 n.s
無	無	408(8.4)	108(9.5)	183(8.1)	66(6.7)	1(6.7)	41(10.1)	5(9.1)	4(10.3)	
お七夜										
有	有	2450(50.2)	508(44.9) -	1248(55.5) +	523(53.0) +	9(60.0)	126(31.0) -	23(41.8)	13(33.3) -	<0.001 **
無	無	2249(46.1)	566(50.0)	931(41.4)	428(43.4)	6(40.0)	266(65.4)	29(52.7)	23(59.0)	
百日祝い										
有	有	2898(59.4)	614(54.3) -	1440(64.1) +	610(61.9)	11(73.3)	176(43.2) -	29(52.7)	18(46.2)	<0.001 **
無	無	1802(36.9)	461(40.8)	735(32.7)	346(35.1)	4(26.7)	215(52.8)	22(40.0)	19(48.7)	
初誕生										
有	有	3703(75.9)	830(73.4) -	1755(78.1) +	778(78.9) +	13(86.7)	267(65.6) -	37(67.3)	23(59.0) -	<0.001 **
無	無	1003(20.6)	251(22.2)	423(18.8)	175(17.7)	1(6.7)	126(31.0)	13(23.6)	14(35.9)	
誕生日										
有	有	4717(96.7)	1081(95.6)	2188(97.4)	952(96.6)	15(100.0)	393(96.6)	51(92.7)	37(94.9)	0.202 n.s
無	無	9(0.2)	5(0.4)	3(0.1)	1(0.1)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	
七五三										
有	有	4722(96.8)	1085(95.9)	2179(97.0)	958(97.2)	15(100.0)	394(96.8)	52(94.5)	39(100.0)	0.156 n.s
無	無	12(0.2)	8(0.7)	3(0.1)	1(0.1)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	
成人式										
有	有	4639(95.1)	1056(93.4)	2156(96.0)	945(95.8)	15(100.0)	382(93.9)	49(89.1)	36(92.3)	0.052 n.s
無	無	91(1.9)	29(2.6)	35(1.6)	14(1.4)	0(0.0)	9(2.2)	2(3.6)	2(5.1)	
結納										
有	有	4292(88.0)	944(83.5) -	2012(89.5) +	890(90.3) +	14(93.3)	352(86.5)	46(83.6)	34(87.2)	<0.001 **
無	無	426(8.7)	143(12.6)	167(7.4)	66(6.7)	1(6.7)	40(9.8)	6(10.9)	3(7.7)	
婚礼										
有	有	4478(91.8)	1007(89.0) -	2093(93.1) +	912(92.5)	14(93.3)	367(90.2)	50(90.9)	35(89.7)	0.013 *
無	無	233(4.8)	77(6.8)	85(3.8)	41(4.2)	1(6.7)	26(6.4)	2(3.6)	1(2.6)	
厄払い										
有	有	3728(76.4)	851(75.2)	1734(77.2)	744(75.5)	11(73.3)	318(78.1)	41(74.5)	29(74.4)	0.422 n.s
無	無	895(18.3)	210(18.6)	415(18.5)	176(17.8)	4(26.7)	71(17.4)	11(20.0)	8(20.5)	
長寿の祝い										
有	有	4271(87.5)	952(84.2) -	2002(89.1) +	876(88.8)	14(93.3)	351(86.2)	45(81.8)	31(79.5)	0.009 **
無	無	419(8.6)	126(11.1)	173(7.7)	68(6.9)	1(6.7)	39(9.6)	7(12.7)	5(12.8)	
葬儀										
有	有	4647(95.2)	1058(93.5)	2160(96.1)	938(95.1)	15(100.0)	387(95.1)	52(94.5)	37(94.9)	0.107 n.s
無	無	77(1.6)	29(2.6)	29(1.3)	15(1.5)	0(0.0)	4(1.0)	0(0.0)	0(0.0)	
法事										
有	有	4439(91.0)	1000(88.4) -	2066(91.9) +	905(91.8)	13(86.7)	371(91.2)	50(90.9)	34(87.2)	0.021 *
無	無	264(5.4)	88(7.8)	109(4.9)	43(4.4)	2(13.3)	18(4.4)	2(3.6)	2(5.1)	

無回答を除いているので、各変数の合計人数は異なる。

有意差の検定：pearson の χ^2 検定 *: p<0.05 **: p<0.01 n.s: 有意差なし+、-は、残差分析で調整頻度に有意差が認められた項目を示す。 $(\chi^2$ 検定の結果、有意差のある項目のみ)+: 調整済み残差 \geq +2で他の調整頻度より有意に多い。-: 調整済み残差 \leq -2で他の調整頻度より有意に少ない。

家族構成と関係があった儀礼をみると、同世代の認知度で全部の儀礼に、経験の初誕生と厄払い以外に有意に少ないことが認められた。そして、本人一人でも、認知度のお七夜、百日祝い、初誕生に、経験の誕生日、厄払い、法事以外の儀礼に有意に少ないことが認められた。

二世代の認知度で全部の儀礼に、経験の厄払い以外に有意に多いことが認められた。そして、三世代でも、認知度のお七夜、初誕生、結納に、経験の誕生日、長寿の祝い、葬儀、法事以外に有意に多いことが認められた。また、四世代の経験で、お七夜と成人式に有意に多いことが認められた。

その結果、認知、経験とともに二世代、三世代、四世代の順に有意に多いことが認められた。そして、同世代、本人一人に有意に少ないことが認められた。

(2) 儀礼に供される食べ物の経験

儀礼に供される食べ物では、誕生日ケーキと七五三の千歳飴が90%以上で、七五三の赤飯、婚礼の祝い料理、法事の和・洋・中・他料理、葬儀の精進料理(68.1~52.7%)

が高い(表7)。低い食べ物は、長寿、お七夜、誕生日、百日祝い、初誕生、成人式の赤飯(21.7~39.0%)と、厄払い、長寿、成人式の餅(5.6~20.5%)と、長寿、お七夜、百日祝いのお頭付き魚(12.8~26.0%)、そして、長寿、法事、結納の料理(27.3~35.6%)である。

家族構成との関係において、儀礼の食べ物7割に関係があった。誕生日ケーキ、七五三の千歳飴は全体に高く、長寿の食べ物、法事の精進料理は、低い値で関係がなかった。葬儀の精進料理は、全体に50%前後で関係がなかった。

家族構成と関係があった食べ物をみると、本人一人の厄払いの餅以外に有意に少ないことが認められた。そして、同世代の初誕生、婚礼などの7の食べ物に有意に少なく、厄払いの餅のみ有意に多いことが認められた。

二世代の出産祝い、お七夜、百日祝い、初誕生、成人式、結納、婚礼、長寿の祝い、葬儀などの10の食べ物に有意に多いことが認められた。そして、三世代でも、二世代と同じような11の食べ物で、有意に多いことが認められた。その結果、二世代は、出産から乳児期に関する食べ物と成

表6. 家族構成にみる儀礼の経験

儀礼	家族構成	全体 n=4880	同世代 n=1131	二世代 n=2247	三世代 n=986	四世代 n=15	本人一人 n=407	その他 n=55	無回答 n=39	χ^2 検定
出産祝い										
	有	2357(48.3)	517(45.7) ⁻	1141(50.8) ⁺	534(54.2) ⁺	10(66.7)	115(28.3) ⁻	24(43.6)	16(41.0)	<0.001 **
	無	2294(47.0)	550(48.6)	1014(45.1)	408(41.4)	5(33.3)	272(66.8)	24(43.6)	21(53.8)	
お七夜										
	有	1411(28.9)	294(26.0) ⁻	704(31.3) ⁺	330(33.5) ⁺	8(53.3) ⁺	50(12.3) ⁻	18(32.7)	7(17.9)	<0.001 **
	無	3006(61.6)	715(63.2)	1357(60.4)	566(57.4)	7(46.7)	305(74.9)	27(49.1)	29(74.4)	
百日祝い										
	有	1930(39.5)	407(36.0) ⁻	971(43.2) ⁺	428(43.4) ⁺	9(60.0)	81(19.9) ⁻	20(36.4)	14(35.9)	<0.001 **
	無	2531(51.9)	615(54.4)	1103(49.1)	479(48.6)	6(40.0)	279(68.6)	26(47.3)	23(59.0)	
初誕生										
	有	2645(54.2)	585(51.7)	1289(57.4) ⁺	577(58.5) ⁺	11(73.3)	140(34.4) ⁻	25(45.5)	18(46.2)	<0.001 **
	無	1887(38.7)	458(40.5)	820(36.5)	338(34.3)	3(20.0)	229(56.3)	21(38.2)	18(46.2)	
誕生日										
	有	4643(95.1)	1061(93.8) ⁻	2159(96.1) ⁺	938(95.1)	15(100.0)	383(94.1)	50(90.9)	37(94.9)	0.009 **
	無	37(0.8)	12(1.1)	15(0.7)	2(0.2)	0(0.0)	8(2.0)	0(0.0)	0(0.0)	
七五三										
	有	4563(93.5)	1051(92.9)	2108(93.8)	928(94.1)	15(100.0)	374(91.9)	48(87.3)	39(100.0)	0.490 n.s
	無	125(2.6)	32(2.8)	54(2.4)	23(2.3)	0(0.0)	14(3.4)	2(3.6)	0(0.0)	
成人式										
	有	3003(61.5)	650(57.5) ⁻	1429(63.6) ⁺	644(65.3) ⁺	13(86.7) ⁺	216(53.1) ⁻	31(56.4)	20(51.3)	<0.001 **
	無	1667(34.2)	421(37.2)	736(32.8)	304(30.8)	2(13.3)	169(41.5)	18(32.7)	17(43.6)	
結納										
	有	1829(37.5)	389(34.4) ⁻	915(40.7) ⁺	432(43.8) ⁺	9(60.0)	62(15.2) ⁻	12(21.8) ⁻	10(25.6)	<0.001 **
	無	2814(57.7)	680(60.1)	1235(55.0)	505(51.2)	6(40.0)	324(79.6)	37(67.3)	27(69.2)	
婚礼										
	有	2747(56.3)	606(53.6) ⁻	1324(58.9) ⁺	595(60.3) ⁺	10(66.7)	168(41.3) ⁻	28(50.9)	16(41.0)	<0.001 **
	無	1911(39.2)	468(41.4)	830(36.9)	346(35.1)	5(33.3)	219(53.8)	23(41.8)	20(51.3)	
厄払い										
	有	1497(30.7)	350(30.9)	675(30.0)	333(33.8) ⁺	7(46.7)	109(26.8)	13(23.6)	10(25.6)	0.021 *
	無	2974(60.9)	674(59.6)	1408(62.7)	555(56.3)	8(53.3)	266(65.4)	37(67.3)	26(66.7)	
長寿の祝い										
	有	1794(36.8)	367(32.4) ⁻	891(39.7) ⁺	373(37.8)	5(33.3)	130(31.9) ⁻	15(27.3)	13(33.3)	0.005 **
	無	2803(57.4)	690(61.0)	1243(55.3)	550(55.8)	10(66.7)	252(61.9)	35(63.6)	23(59.0)	
葬儀										
	有	4077(83.5)	922(81.5) ⁻	1929(85.8) ⁺	814(82.6)	13(86.7)	325(79.9) ⁻	42(76.4)	32(82.1)	0.041 *
	無	598(12.3)	154(13.6)	235(10.5)	132(13.4)	2(13.3)	62(15.2)	9(16.4)	4(10.3)	
法事										
	有	3637(74.5)	795(70.3) ⁻	1705(75.9) ⁺	753(76.4)	11(73.3)	305(74.9)	37(67.3)	31(79.5)	0.026 *
	無	1001(20.5)	269(23.8)	449(20.0)	181(18.4)	4(26.7)	80(19.7)	13(23.6)	5(12.8)	

人数 (%)

無回答を除いているので、各変数の合計人数は異なる。

有意差の検定 : pearson の χ^2 検定 *: p<0.05 **: p<0.01 n.s: 有意差なし+、-は、残差分析で調整頻度に有意差が認められた項目を示す。 χ^2 検定の結果、有意差のある項目のみ+: 調整済み残差 $\geq +2$ で他の調整頻度より有意に多い。-: 調整済み残差 ≤ -2 で他の調整頻度より有意に少ない。

人式、婚礼に関する食べ物に、そして、三世代は、出産から婚礼までの広い範囲の食べ物に有意に多いことが認められた。そして、本人一人に、次いで同世代に、有意に少ないことが認められた。

4) 家族構成と行事、儀礼との相関

調査対象者の家族構成と行事の関係性について明らかにするために相関係数を算出し、相関の認められた項目を示した(表8)。

(1) 家族構成と行事

家族構成と認知度の関係で、節分と秋分に相関があった($p < 0.01$)。経験との関係では、春分、盂蘭盆、秋分、冬至、秋祭りに相関があった($p < 0.01$)。

家族構成と行事に供される食べ物との関係では、正月の食べ物9種類、七草粥、節分の食べ物2種類、上巳の食べ物4種類、春分の食べ物2種類、盂蘭盆の食べ物4種類、秋分の食べ物2種類、冬至のかぼちゃ、クリスマスの鶏肉・七面鳥、大晦日の尾頭付きいわし料理、秋祭りの食べ物2種類に相関があった($p < 0.05$, $p < 0.01$)。

(2) 家族構成と儀礼

家族構成と儀礼の関係で、法事は、認知度、経験、食べ物に相関があった($p < 0.01$, $p < 0.05$)。

家族構成と儀礼に供される食べ物との関係で、出産祝い、誕生日、七五三の赤飯に相関があり($p < 0.01$), 成人式の餅、法事の和・洋・中・他の料理と精進料理に相関があった($p < 0.05$)。

4. 考察

1) 家族構成

本研究では、日本の伝統文化である行事食および儀礼食の伝承がされにくい社会状況があり、そのひとつに家族構成の変化があると考えて検討した。

平成23年の調査⁹⁾によると、「夫婦と未婚の子のみの世帯」が30.7%，次いで「単独世帯」25.5%，「夫婦のみの世帯」22.6%，「三世代世帯」7.9%で、平均世帯数は増加し、平均世帯人員数は減少にある。その中でも65歳以上では、単独世帯、夫婦のみの世帯の割合が上昇傾向にある。

表8 家族構成と相関のあった項目

家 族 構 成		
	ρ	検定
行事 認知度	節分	0.068 **
	秋分	-0.042 **
経験	春分	-0.039 **
	孟蘭盆	-0.050 **
食べ物	秋分	-0.039 **
	冬至	-0.057 **
食べ物	秋祭り	-0.043 **
	正月：屠蘇	0.038 **
食べ物	正月：雑煮	0.032 *
	正月：赤飯	0.050 **
食べ物	正月：黒豆	0.046 **
	正月：田作り	0.035 *
食べ物	正月：昆布巻き	0.031 *
	正月：きんとん	0.038 **
食べ物	正月：伊達巻	0.053 **
	正月：かまぼこ	0.033 *
食べ物	人日：七草粥	0.037 *
	節分：いり豆	0.047 **
食べ物	節分：のり巻き	0.052 **
	上巳：白酒	0.044 **
食べ物	上巳：餅菓子	0.041 **
	上巳：寿司・ご飯	0.065 **
食べ物	上巳：はまぐり潮汁	0.048 **
	春分：ご飯、団子	0.061 **
食べ物	春分：精進料理	0.074 **
	孟蘭盆：麺	0.057 **
食べ物	孟蘭盆：団子、餅	0.048 **
	孟蘭盆：精進料理	0.057 **
食べ物	孟蘭盆：煮しめ	0.060 **
	秋分：ご飯、団子	0.061 **
食べ物	秋分：精進料理	0.052 **
	冬至：かぼちゃ	0.063 **
食べ物	クリスマス：鶏肉、七面鳥	0.039 **
	大晦日：尾頭付きいわし料理	0.036 *
食べ物	秋祭り：ご飯、寿司	0.049 **
	秋祭り：団子、餅	0.047 **
儀礼 認知度	法事	-0.040 **
	経験	-0.029 *
食べ物	出産祝い：赤飯	-0.037 **
	誕生日：赤飯	0.041 **
食べ物	七五三：赤飯	0.039 **
	成人式：餅	0.032 *
食べ物	法事：和・洋・中・他料理	0.033 *
	法事：精進料理	0.037 *

ρ :Spearman の相関係数
有意性の検定：*: p<0.05 **:p<0.01

本調査では、二世代、三世代ともに国民生活基礎調査の結果より多く、同世代、一人暮らしは少なかった。

家族構成の変化とともに、女性の社会進出が進み、人々の生活スタイルが多様化し、食の外部化などにより、家族そろって家庭で食事をする機会が少なくなっている現状がある。これは、食育推進基本計画¹⁰⁾で、家族と共に食する回数増加が目標になっていることからもわかる。このように

家庭内で食文化が伝承されにくい状況がある。

本調査で行事食へ影響を与えた人は、母方が多かった。行事を大切にしている人は女性に多く¹¹⁾、正月料理を教わるのは、母親が多い¹²⁾。また、母親にとって、ハレの日の料理を家族のために準備・調整することは、家族への愛情表現や贈り物・返礼としての意味を持つとともに有効な自己表現の手段となっている¹³⁾、という報告もある。家庭のなかで、行事食や儀礼食を伝承していくには、母親の役割が大きいといえる。

2) 家族構成と行事

本調査では、行事の認知度は、重陽、秋祭り、春祭り孟蘭盆以外の行事で、高い値を示していた。そして、全体には、行事の認知度よりも経験の方が低かった。この本調査と同様な結果を得ている調査報告^{14~16)}がある。

また、家族構成と行事の認知度との関係で、多くの行事が、検定で有意な関係が認められ、二世代、三世代に有意に多く、同世代、本人一人で有意に少なかった。行事の経験との関係で、二世代よりも三世代に有意に多いことが認められた。また、家族構成と行事の経験との相関が5行事で認められ、行事の認知度との相関がみられた2行事よりも多く認められた。

日本の古くから伝わる食文化を大切にして、自分の子どもにも、教えていく必要がある、と考えている人は多い^{18, 19)}。しかし、行事食を作るとなると、2世代の女性において、夫の親と同居している場合には、市販品を購入しても品数を多くして¹³⁾、義母がいなくなると行事をやめたり、行事食を作らなくなったり¹⁷⁾、という報告がある。よって、経験は、二世代よりも三世代の方が、多いのだと思われる。また、同世代や本人一人で、有意に少ないことが認められているのは、はやり、家族が少ないからだと思われる。

お彼岸や孟蘭盆などの先祖の供養に関する行事や節分、冬至など暦に関する行事で、家族構成と相関がみられた。このことは、高齢者が大事にしている行事であるので、三世代において多かったのではないかと思われる。

年中行事は、農作物の収穫を四季折々に神仏や自然に祈願する習慣が、毎年行われてきたことから生活のなかに伝承されてきたものであり、それとともに地域で採れた作物などが供えられてきた。また、それらの行事は、地域や家(親戚)などの集まりで行われてきたものである²⁰⁾。しかし、家族構成の変化やライフスタイルの変化にともない、地域との結びつきも希薄になっているため、行事を地域で行う機会も減り、親戚で集まる機会や家庭内で行う機会も減少している。春祭りや秋祭りが低いのは、地域で行われてきた行事であるためと思われる。

行事の食べ物で低かった、重陽の菊花酒と七夕の食べ物は、家族構成と関係はなかった。本調査と同様に低いと報告されているものがある^{14~16, 21)}。重陽の節句は、9月9日

で、一番大きな数字の日で、めでたい日、菊花酒は長寿の酒といわれている²²⁾。しかし、同月の9月の敬老の日の方が、マスコミから情報も伝わるので、重陽は、認知されにくい行事になっている、と思われる。七夕は、人が食する食べ物との関連が薄い行事であるので、認知はされているが、低かったと思われる。

家族構成と行事に供される食べ物との関係で、相関が認められなかったのは、端午、七夕、土用、重陽、月見、春祭りに供される食べ物で、それ以外の行事では、何らかの食べ物に相関が認められた。

端午の節句は、家庭に子どもがいないと行われない行事であると考えられるが、連休の期間で、レジャーに行くとも考えられる。土用のうなぎは、マスコミや販売店などの宣伝も大きく影響されていて、家族構成に関係なく、食されているのではないかと考えられる。お月見の団子は、全体に6割程度の経験で、家族構成に左右されていないが、市販のお団子を購入する程度と思われる。

クリスマス、大晦日、正月など家族が休める時期にある行事を中心に供される食べ物は、高い割合になっているので、三世代、二世代に有意に多いと認められたのではないかと考える。

行事は、毎年行われるものであり、企業などによって宣伝された食べ物が、時季になると販売されるので、その影響も大きくあると考える。

3) 家族構成と儀礼

人生においての通過儀礼は、高度経済成長期を境に変化している。伝統的な儀礼は、地域社会から家族を母体にした儀礼に変容してきたので、消えた儀礼や新たにできた儀礼などがある²³⁾。今回は、伝統的な儀礼について調査を行った。

家族構成と儀礼の関係では、行事と異なり、三世代よりも二世代に認知、経験ともに有意に多いことが認められた。シニア時代よりも若い人たちの方が、産育に関する儀礼を行っているという報告がある²⁴⁾。本調査でも二世代は、出産から乳児期に関する儀礼で経験、および食べ物に有意に多いことが認められた。年中行事は、神仏や自然に対して行われるものであるが、通過儀礼は、人に対して行われるものなので、若い人たちに受け入れやすいのではないかと思われる。

また、誕生日の認知度、経験は高く、他の調査でも同様に報告されている^{14~16, 25)}。そして、本調査では、二世代の経験で、有意に多いことが認められた。誕生日に供される食べ物の赤飯は、三世代に有意に多いことが認められた。

赤飯をみると三世代では、出産祝い、お七夜、初誕生、誕生日、成人式の赤飯に有意に多いことが認められ、二世代では、出産祝い、百日祝い、初誕生の赤飯に有意に多いことが認められた。

古くからお祝いごとに赤飯が喫食されてきたが、若い世代では、誕生日のケーキにもみられるように、食の洋風化が浸透し、伝統食である赤飯は食べられなくなっている¹⁴⁾。

本調査では、葬儀および法事の認知度、経験がともに高く、同様の報告²⁵⁾がある。そして、本調査では、法事に家族構成との相関も認められている。

葬儀や法事の儀礼に参加することは、誰でも経験すると思われるが、高齢者のいる家族の方が、経験は高いと思われる。しかし、食べ物については、精進料理とは限らなくなっている。

儀礼や行事に供される食べ物では、飯類や餅類などが多く、精進料理や酒類などが、伝統食として継承されている。しかし、「自分や家族にとって特別（大切）な日に食べる料理」²⁵⁾の上位5位は、握り寿司、すき焼き、刺身、焼き肉、手巻き寿司（37.2~26.0%）と報告されている。

行事食や儀礼食は、家族や仲間によって、現代に合わせた料理（外食、中食、宅配、市販などの形態も含め）、食べ物へと変化していると思われる。

また、地域や親戚（家）などの集まりによって行われてきた人生の通過儀礼が、家族中心で行われるようになり、高齢者から若い世代へと継承することが自然であった伝統食が、家族構成の変化によって、それだけでは継承しにくくなっている。行事および儀礼の認知度は高いだけに伝承していく方法を教育のなかでも考えていくことの必要性を感じた。

5. まとめ

行事食と儀礼食について調査したデータベースから、関東甲信越地区の調査により、女性4,880名を対象に、家族構成との関係を検討した結果から次のことがいえた。

1) 行事の認知度は、重陽の節句、春・秋祭り、盂蘭盆以外は85%以上と高かった。認知度および経験では、二世代、三世代が高かった。家族構成との関係では、二世代の認知度に、経験は三世代に有意に多いこと認められた。家族構成と行事の経験で5行事に相関が認められた。

2) 儀礼の認知度は、お七夜、百日祝いが、やや低かった。儀礼食の経験は、誕生日、七五三、葬儀、法事が高く、厄払い、長寿の祝い、結納、百日祝いが低かった。家族構成との関係では、二世代に次いで三世代に有意に多いことが認められ、家族構成と経験との関係で、七五三以外の儀礼に関係が認められた。また、家族構成と認知度および経験との関係において相関が認められたのは法事だった。

3) 行事に供される食べ物では、正月料理、上巳の寿司と餅菓子、土用のうなぎの蒲焼、冬至のかぼちゃ、クリスマスの鶏肉・七面鳥料理とケーキ、大晦日の年越しそばなどが高かった。そして、家族構成と行事の食べ物との関係では、2/3に有意な関係が認められ、また、端午、七夕、

土用, 重陽, 月見, 春祭り以外の食べ物に相関が認められた。

儀礼に供される食べ物では, 誕生日, 七五三, 葬儀, 法事が高かった。家族構成と儀礼の食べ物との関係では, 7割の食べ物に有意な差があった。また, 出産祝い, 誕生日, 七五三の赤飯, 成人式の餅, 法事の精進料理とその他の料理に相関が認められた。

以上により, 核家族の増加にともない, 家庭内だけで年中行事や通過儀礼の伝統食を伝承していくのは, 難しいと思われる。教育機関における食教育の重要性と実践の必要性をあらためて思った。

6. 謝辞

本調査のデータベースを使わせていただいた日本調理科学会特別研究委員会と, この調査にご協力いただきました日本調理科学学会会員の先生方, そして調査に回答していただいた皆様に深く感謝いたします。

7. 文献

- 1) 遠藤金次, 橋本慶子, 今村幸生: 食生活論, 南江堂, p.7 (2003)
- 2) 岡崎光子: 新食生活論第3版, 光生館, p11 (2011)
- 3) 田中平蔵, 徳丸信寛, 伊達ちぐさ, 佐々木敏: 公衆栄養学, 南江堂, p143 (2010)
- 4) 平成19年厚生労働省国民健康・栄養調査報告: 国民健康・栄養の現状, 第一出版, p44 (2010)
- 5) 宮田登: 正月とハレの日の民俗学, 大和書房, p10 (1997)
- 6) 『読売新聞』: 冠婚葬祭に関する全国世論調査(郵送式) 本社調査, 2012年4月7日掲載
- 7) 農林水産省: 農林水産省大臣官房政策課食ビジョン推進室, http://www.e-shokuiku.com/selfsupply/11_2_3.htm
- 8) 平成23年2月日本調理科学会「調理文化の地域性と調理科学」特別研究委員会: 平成21~23年度 日本調理科学会特別研究「調理文化の地域性と調理科学」報告書一行事食・儀礼食一, 三原プリント印刷, pp1~20 (2011)
- 9) 厚生労働省大臣官房統計情報部編: 平成22年国民生活基礎調査 第1巻, 一般財団法人厚生労働統計協会, p91 (2012)
- 10) 監修(社)全国栄養士養成施設協会, (社)日本栄養士会, 著者: 井上浩一, 草間かおる, 村山信子: 公衆栄養学, 第一出版, pp90~97 (2011)
- 11) 福島雅子, 宮島宏美: 行事や季節を大切にした給食作り, 学校給食62(1), pp26~35 (2011)
- 12) 下坂智恵, 下村道子, 近藤四郎: 青年女子の食意識と家事行動に関する研究, 日本家政学会誌, Vol.45, No.12, 1103~1114 (1994)
- 13) 塩谷幸子: 食文化の継承意識に影響する家族関係—正月料理の変化を通して-, 風間書房 (2011)
- 14) 鷺見裕子: 行事食に関する意識と実態, 高田短期大学紀要30号, 141~150 (2012)
- 15) 佐藤幸子, 山本千華, 加藤里美, 高梨萌, 渡邊綾香: 「行事食・儀礼食」調査研究の一考察, 戸板女子短期大学部年報第一第53号, 1~14 (2010)
- 16) 山村涼子, 山下浩子, 真谷智美, 高松幸子: 行事に関する調査研究 第1報, 久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第53号, 59~67 (2011)
- 17) 山下浩子, 山村涼子, 真谷智美, 高松幸子: 行事食に関する調査研究第2報, 久留米信愛女学院短期大学紀要, 第34号, 45~49 (2011)
- 18) 食の安全と健康意識データ2012: 三冬社, p231 (2012)
- 19) 食生活・食意識関連マーケティング白書2008: (株)日本能率協会総合研究所マーケティング・データバンク, p388 (2008)
- 20) 竹中敬明: 伝えていきたい日本の伝統文化 四季の年中行事と習わし, 近代消防社刊, pp11~31 (2010)
- 21) 巨理ナミ, 吉中哲子, 岩倉さち子, 石綿きみ子: 行事食からみた食生活の動向(第1報), 家政学雑誌, Vol.32, 479~487 (1981)
- 22) 佐々木輝雄: 年中行事から食育, 筑波書房, pp106~111 (2006)
- 23) 石井研土: 日本人の一年と一生 変わりゆく日本人の心性, 春秋社, pp128~134 (2005)
- 24) 新谷尚紀, 波平恵美子, 湯川洋司編: 「暮らしの中の民俗学③一生」, 吉川弘文館, p25 (2003)
- 25) 食生活データ総合統計年報2011: 三冬社, p.159(2011)

Abstract

4,880 females in the Kanto-Koshinetsu region of Japan were selected from a database of survey responses on festive and ceremonial foods to investigate correlations with family structure.

1. Experience of festivals and ceremonies was lower than awareness.

High proportions (at least 85 percent) were aware of all festivals except Choyo no Sekku (Chrysanthemum Festival), spring and autumn festivals, and Bon Festival.

Significantly larger residuals were obtained for festival awareness in two-generation families, and festival experience in three-generation families.

Foods served at festivals were found to differ significantly according to family structure in two out of three festivals.

Significant correlations of festivals with family structure were observed for awareness of Setsubun and the autumnal equinox, and for experience of the vernal equinox, Bon Festival, autumnal equinox, winter solstice, and autumn festival.

No significant correlation between foods served at festivals and family structure was observed for Tango no Sekku (Boy's Festival), Star Festival, Midsummer Day of the Ox, Choyo no Sekku, Tsukimi (moon viewing), or spring festival.

2. Festival awareness was low for Oshichiya (seventh night after a child's birth) and Momoka-iwai (100 days after a child's birth).

Experience of ceremonies differed significantly according to family structure in all cases except Shichi-go-san (ceremonies for children aged three, five, and seven).

Significant differences according to family structure were found for 70 percent of foods served at festivals.

Awareness and experience of festivals were significantly correlated with family structure in the case of Buddhist ceremonies for the dead.

Significant correlations between foods served at festivals and family structure were observed for celebrations of births, birthdays, red rice for Shichi-go-san, rice cakes for coming-of-age ceremonies, vegetarian Buddhist dishes for Buddhist ceremonies for the dead, and other dishes.